

中期目標に掲げる基本目標

中期計画の概要

2010年度 年度計画の概要

研究・教育の質の向上に関する目標を達成するための措置

**国際的に通用する人材の育成**

神戸市外国語大学の特色である少人数による密度の高い語学教育と文化・歴史から社会・経済にわたる幅広い教養教育を更に充実させるとともに、質の高いコミュニケーション能力と情報リテラシー(情報を使いこなす能力)を備え、国際社会において自らの見識に基づいて行動できる人材を育成する。

**1 国際的に通用する人材の育成**

●国際的な知識と柔軟な判断力を持つ「行動する国際人」の養成を本学の教育基本理念として定め、それぞれの言語の特性とその背後に広がる文化にも通じた「洗練された外国語能力」が獲得できる新しいカリキュラムを構築する。(2009 新カリキュラム実施)

**(1) 複数外国語を使える高い語学力の育成**

- 専攻・兼修語学の少人数化(2008以降順次実施)
- 専攻語学以外の言語の充実(2009 ドイツ語・兼修フランス語の充実 など)

**(2) 国際コミュニケーション能力の強化**

- 言語コミュニケーションの理論と実践に焦点を絞り、会議通訳者などのスペシャリストを育成する国際コミュニケーション特別コースを設置(2009 コース設置、2011 TOEFL(iBT)102=TOEIC900以上)
- 学部から修士課程まで一貫したカリキュラム、ダブルマスター制度を検討(2012 検討)

**(3) 情報化社会への対応**

- 情報の集積・共有化を図るとともに、教室環境や情報基盤ネットワークのなどを再編、最適化(2012 5人/PC1台)
- 学生の情報リテラシーを高め、教育工学分野等の人材育成を図るため、関連カリキュラム等を充実(2012 経済産業省標準のITスキル達成)

**(4) 学生アメニティの拡充**

- 学生数増加等に伴う施設拡充(2007 学生会館増築、2008図書館増築 2009以降トイレ改修など順次実施)
- 施設保全計画に基づく計画的な補修(2007以降順次実施)

**(5) 学生への生活支援と進路・就職支援**

- キャリア形成のための講座を充実強化(2007以降順次実施)、卒業生と学生・教員のネットワーク構築を同窓会等の支援も得て実施(2010実施)
- 学生ニーズの的確な把握システムし、個別ニーズに応じた相談体制の整備(2007以降順次実施)

- 新カリキュラムへの全面移行(2012年度に全学年適用)に向けた取組の実施・検討(少人数クラス化推進の調整や運用改善、事後検証等)
- 学生が科目選択を効果的に行えるよう履修ガイダンスの充実等を検討
- 授業評価アンケート、学生との座談会、FD通信の発行等の結果を活用し、授業支援のための取組を検討。

**拡充** ●アドミッションポリシー、カリキュラムポリシーを受験生等に積極的に広報

- 語学授業クラスの少人数化を実施
- 兼修語学のガイドライン作成、eラーニング等の学生利用を啓発
- 第3AV教室の更新方針決定

●コース科目を担当するネイティブ教員の採用(1名)

**新規**

●2011年度末に初めて輩出予定のコース卒業生の進路先の検討着手

**拡充** ●大学院修士課程(英語学専攻内にコース設置予定)におけるカリキュラム検討、ダブルマスター制度に向けて海外の大学等との協議を継続

**拡充** ●学務システムのポータルサービス提供の本格始動

**新規**

●シラバスのWeb上での公開開始

**拡充** ●学術情報部会を新設し、学術情報の発信強化などを検討

●情報科学概論の内容等の見直しの検証(初学者向け内容の充実)

**拡充** ●外国人研究者、留学生が来学しやすいキャンパスづくりの推進(学内掲示の英語等表記検討)

●学生ニーズを把握し、トイレ改修や学内安全確保

●受水槽など給排水設備、大ホール空調設備の改修

●キャリアデザイン講座、インターンシップの参加学生数の増加、TOEIC対策ガイダンスの継続実施

●卒業生や内定を得た4年生による3・4年生の就職支援活動の充実

**拡充** ●授業評価アンケート、学生団体要望等に加え、新たに学務システムのポータルサイト等を活用して、学生ニーズ把握や相談窓口の周知等を実施

中期目標に掲げる基本目標

中期計画の概要

2010年度 年度計画の概要

高度な研究・教育の推進

高度な語学力によって海外の最新情報を収集し、紹介することとどまらず、その背後にある歴史・社会・文化の分析と比較を通して新たな知見を開拓し、その研究成果を国内外に広く発信する「発信型」の研究拠点へと変革していく。

また、教員の活発な研究活動と学外・海外の研究者との交流の中で、修士課程・博士課程の院生を国際的に通用する研究者として育成していく。



2 高度な研究・教育の推進体制

(1) 外国学の研究拠点と研究成果の発信

- 可能な限り多くの教員が申請に参加し科学研究費補助金のさらなる獲得 (2012 新規申請数 24件、獲得件数(新規・継続) 30件)
- アジア言語やヨーロッパ文化など高い水準の研究スタッフを組織化し、大学独自の研究プロジェクトを実施(2010 プロジェクト開始)
- フランス科学院(CNRS)アジア部門、ブータン研究センターとの提携を検討するとともに、ロシア・中国・イスパニア・オーストラリア等の研究機関との提携も模索する。(2007以降順次検討・実施)

新規

(2) 研究と教育をリンクさせた大学院教育

- より魅力のある大学院づくりを行うため、カリキュラム全体の見直しを行う。(2012 院生が海外の学会発表実施)
- 特色GPの成果の反映及びリカレント・プログラムの特殊性を考慮し、学生満足度の向上を目指す。(学生満足度の充実 2012まで順次実施)
- 院生に海外で研究する機会を提供するため、海外の大学院との提携や院生の派遣を行う。(2007以降順次実施)

新規

新規

- 若手研究員を中心とした教員が申請しやすい環境整備を推進(科学研究費補助金の公募申請説明会・各種相談、客員研究員の申請支援)
- 文部科学省などによる新規補助制度への対応について検討
- 2011年度に開催予定の2つの研究プロジェクトの情報発信等
  - ・第17回国際ヒマラヤ言語学シンポジウム(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所と共催)
  - ・第2回国際セミナー(バスク大学(スペイン)と共催)
- 拡充** 大学院・研究者レベルの交流のため、研究機関との提携を推進
  - 参考 2008年度 : ブータン国立ブータン研究センター(ブータン)、北京語言大学(中国)、カールトン大学(カナダ)
  - 2009年度 : オーストリア学術アカデミー・アジア文化研究所(オーストリア)

- 国際的に活躍できる研究者育成のため、大学院生の海外での研究発表などに対する支援制度を創設
- ダブルマスター制度(大学院生の留学、海外での研究機会の提供)に向けて、海外の大学等との協議を継続
- 希望する大学院生が外部研究資金を獲得できるよう情報提供・指導
- 拡充** 東京外国語大学との協定(2008年度締結)に基づく連携事業の実施
- 大学院のカリキュラムの魅力向上や改善の検討体制を整備
- 英語教育学専攻(修士課程)について市内の小中高校教員へのPR強化  
大学教員と小中高教員が理論と実践を学びあう場としてさらに活性化。  
教員免許状更新講習としても授業の一部を提供(夏、冬学期)

中期目標に掲げる基本目標

中期計画の概要

2010年度 年度計画の概要

地域貢献

神戸市や地元企業などと連携して、神戸市外国語大学が持つ知的資源を様々な形で地域社会に提供し、文化面・社会面・経済面での活性化を図っていくとともに、神戸市の教育拠点としての役割を担っていく。

3 地域貢献

(1) 社会人を対象にした教育の充実

- 地域社会の知的需要に対応するため、特定のテーマを系統的に学べる社会人向け講座を新設。(2008 一部実施)
- その他のさまざまな方策について検討(2007 検討体制の構築)
- 第2部の定員削減と新コース設置等を考慮した学部定員の増加(2009 実施)

(2) 神戸市の教育拠点としての役割の充実

- 小学校教員を対象に英語教授法などの研修を実施(2009 実施)
- 小・中・高等学校へセミナーや出前授業を実施(2008 実施)
- 商工会議所等で実施する講座などに、本学教員を講師として派遣(2008 実施)

(3) 推薦入学制度の拡充

- 推薦入学枠の拡大など制度拡充(2009 実施)

(4) 神戸市教育委員会との連携

- 全学的な「連携協議会(仮称)」を設置(2007 実施)
- スクールサポーター制度や学校インターンシップ制度への対応を充実するためプロジェクトチームを設置(2008 設置)
- 小学校での英語活動に貢献できる人材を育成、教育実習等への支援体制を構築(2008 支援体制の充実)

(5) ボランティア活動の支援体制の充実

- ボランティアコーナーの支援・啓発を充実・実施(2007以降順次実施)

- 市民講座、市民講座特別コースを実施
- 図書館市民利用制度の継続実施及び拡充検討
- 拡充** ● 本学の地域貢献活動の取組状況の広報・PR強化

- 小学校の英語教育支援
  - ・近隣小学校等からの要請にもとづき、校内研修等に講師を派遣
  - ・「平成22年度神戸市小学校外国語活動 中核教員研修」を神戸市教育委員会と連携実施(市内全166校対象)

- 小中高校への支援
  - ・英語を中心とした出前授業を継続実施
  - ・教員免許状更新講習を提供(英語教育学専攻の授業の一部)
  - ・英語教育支援活動に関する一般向け広報の充実(ホームページ等)
- 地元企業等への支援
  - ・出前講座リストをもとに、経済関係団体や行政への講師派遣先を開拓

新規

- 2011年度入試(2010年度実施)より、推薦入試に「全国枠」を新設するため、入試広報を広域に実施
- 学生の入学後の成績追跡調査を行い、推薦入試制度の成果を検証

拡充

- 小学校英語教育や国際交流などの分野について、アクションプラン(2009年度策定)に基づきさらなる連携推進

新規

- スクールサポーター、学校インターンシップ活動の単位認定を行う科目を新設し、教職志望学生の参加促進・学校現場の様々なニーズに対応
- 「イングリッシュ・サポーター制度」(2009年度～)への協力を継続
- 小学校教員免許取得制度における参加学生支援(初めて取得者を輩出予定)

新規

- 地域への貢献、海外ボランティア活動への支援やサービスマーケティング等の充実を検討
- 今後の学生ボランティア活動の支援のあり方の検討に着手

中期目標に掲げる基本目標

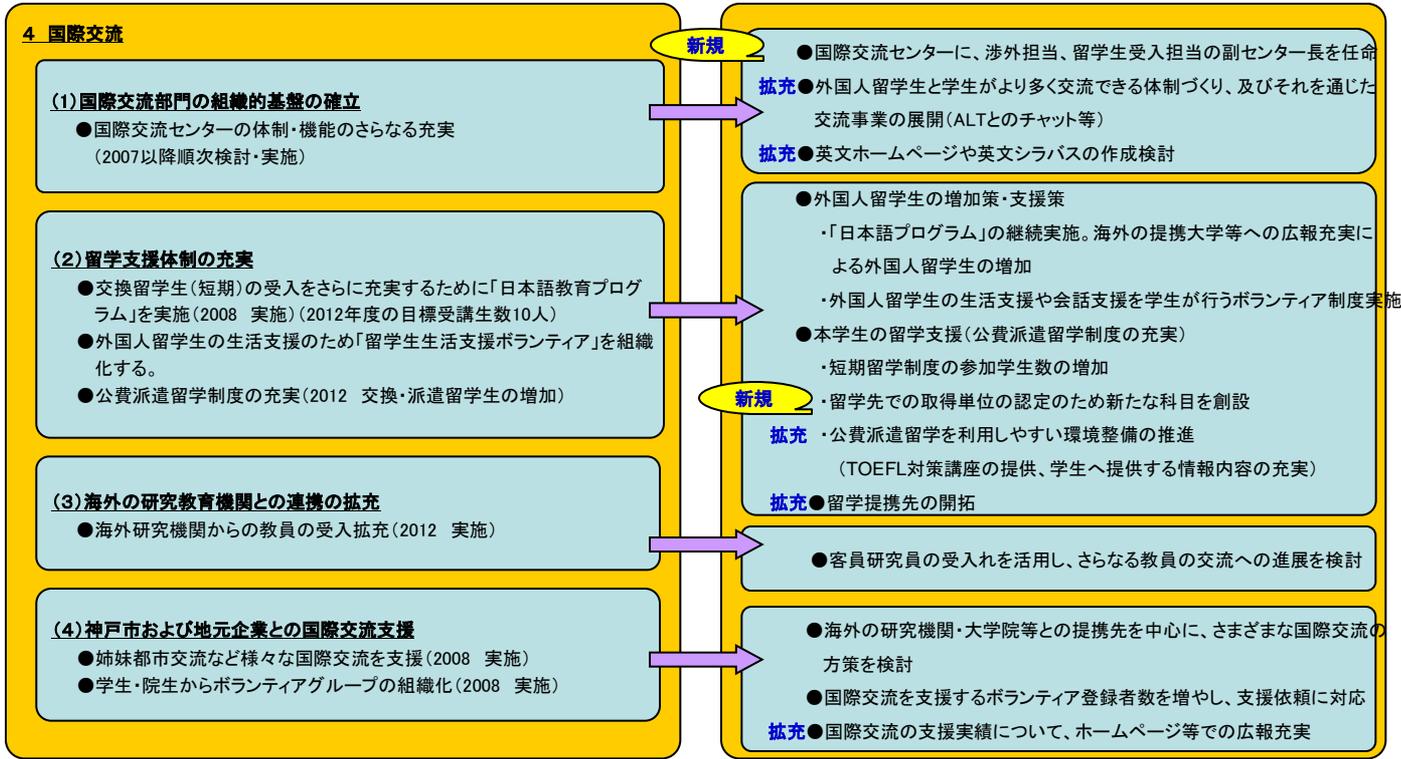
中期計画の概要

2010年度 年度計画の概要

**国際交流**

留学生や教員・研究者の受入れと派遣などにより教育・研究における国際交流を推進していく。

また、外国語大学の特色と知的資源を活用して、神戸市や地元企業などが政治面・経済面・文化面において行う国際交流を支援する体制を整えていく。



中期目標に掲げる基本目標

中期計画の概要

2010年度 年度計画の概要

柔軟で機動的な大学運営

理事長兼学長の適切な運営の下に学外からの意見も積極的に採り入れ、時代と社会の変化に迅速に対応し、自律的で効率的な大学運営を行う。

業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

1 運営体制の改善

- 自律的・効率的な大学運営(2007 理事会設置、委員会再編)
- 迅速で戦略的な意思決定制度(2007 理事補佐、経営企画室設置など)
- 学外との情報の受発信(2007 既存広報媒体の見直し・充実)

2 人事の適正化

- 雇用形態の多様化(2007以降順次実施)
- 業績評価システムの導入(2007以降順次実施)
- 人材育成の推進を図る。特に事務職員に対し大学業務の高度化・専門化へ対応するために、研修等を実施(2007 研修計画策定)
- 意欲向上に適した手当の見直し など

3 事務などの効率化・合理化

- 専門職員を順次配置し、サービスの質を向上(2007以降順次実施)
- 事務組織・執行体制の見直し(2007 実施)
- 事務処理の簡素化・効率化(2007 実施)

財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

1 外部研究資金その他の自己収入の確保

- 学生納付金の定期的な見直し・適正化の検討実施(2007 順次実施)
- 大型科学技術研究費など外部研究資金の獲得
- 多様な自己財源の確保(2007 順次検討実施)

2 経費の抑制

- 総人件費の抑制及び管理運営コストの削減(2007 管理運営業務の総点検 など)
- 戦略的な予算配分が行える仕組みを構築

3 資産の運用管理の改善

- 学舎等老朽施設・設備の計画的な改修(2007 順次実施)
- AV教室等学内ネットワークの整備(2012 AV教室利用率65%)
- 資産の積極的活用と適正な利用料の設定(2007 利用金再設定)

新規

新規

- 新理事長・学長はじめ、役員などの選考手続きを適正に実施
- 学術情報部会・大学院カリキュラム検討部会の設置、研究所の再編
- 外部への広報充実(ホームページ等の充実)
- 外国人留学生や海外の研究教育機関との提携交渉等のため、英文ホームページや英文シラバスの作成検討
- 行政や企業、市民等に対する一般向け広報の強化を検討
- 客員教員の採用、特任教授の選考を実施
- 固有職員(プロパー)、契約職員の採用試験を実施
- 教員のサバティカル制度を創設し、教員の研究活動のための研修を制度化
- 裁量労働制に移行した教員の手当制度(ユニット制)について、2011年度の運用方針の決定
- 事務事業、組織等の定期的な点検を実施
- 専門知識を持つ人材を配置し、サービスの質向上

- 適正な学生納付金の設定について検討
- 外部研究資金の申請がしやすい環境を提供し、間接費を確保
- 文部科学省などによる新規補助制度への対応を検討
- 寄附受入の継続実施、資金計画に基づいた資金運用
- TOEIC、TOEFL等語学試験などの大学施設の外部利用促進(利用環境整備のため一棟貸しの料金体系の導入等)
- サービスの質的向上を図りつつ、雇用の多様化、適正な人員配置などにより総人件費を抑制
- 管理運営業務の総点検を実施(施設管理業務委託の見直し等)
- 老朽施設・設備の改修にあわせた省エネルギー化や、高効率照明(LED等)など省エネルギー機器への順次転換
- AV機器・CALLシステムの利用者支援、国際コミュニケーションコースの教材作成支援などコンテンツの作成支援を実施
- 図書館市民開放の継続実施

中期目標に掲げる基本目標

中期計画の概要

2010年度 年度計画の概要

